

# 令和5年度 学校自己評価システムシート ( 県立大宮工業高等学校 全日制 )

目指す学校像	日本を支え 世界で活躍する 人間性豊かなエンジニアの育成 ～ 小中学生に憧れを！ 在校生に自信を！ 卒業生に誇りを！～
重点目標	1 主体的に取り組む力を育て、学力向上を目指した授業改善を図る 2 自ら律する規律性を育て、自他を大切にできる心を育成する 3 物事を探求する力を育て、望ましい勤労観、職業観を育成する 4 協働教育により、社会に開かれた教育課程を実現する

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
5 年 度 目 標					5 年 度 評 価 ( 2 月 5 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	今年度の評価項目の達成状況	達成度		
学校関係者からの意見・要望・評価等								
実施日 令和6年3月13日								
学校関係者からの意見・要望・評価等								
1	<p>【現状】授業や学校生活に前向きに取り組む、主体的に授業に臨む生徒が増加傾向にある。</p> <p>【課題】自主学習及び資格取得に積極的に取り組むなど、さらなる学習意欲を向上させるための支援・指導を行う必要がある。指導と評価の一体化を目指し、観点別評価を活用した学習改善及び授業改善に努める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習改善及び授業改善</li> <li>自主学習の習慣化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した理解を深める授業の実践</li> <li>学科教科の学習内容の共有及び連携横断授業の実践</li> <li>MHS 工業DXカリキュラム等の開発及び実践</li> </ul>	<p>①生徒アンケートの「授業に主体的、積極的に取り組んでいる」が前年度より上昇したか。</p> <p>②生徒アンケートの「自主学習することが習慣化している」が前年度より上昇したか。</p>	<p>①生徒アンケートの「授業に主体的、積極的に取り組んでいる」が83%、「授業の内容がよく分かっている」が78%となった。</p> <p>②生徒アンケートの「先生は分かりやすい授業を行っている」が81%となったが、「自主学習することが習慣化している」が前年度より12%下がりがり26%となった。</p>	B	<p>○新校の開校に向けて、生徒の「思考力・判断力・表現力」の伸長を目指す授業を実践するとともに、学習意欲の高い生徒の学力を伸ばす取組の強化を引き続き推進する。</p> <p>○指導と評価の一体化を目指し、観点別評価を活用した学習改善及び授業改善に努める。また、生徒タブレットを有効的に活用し生徒の学習環境向上に努める。</p>	<p>思考力・判断力・表現力の育成は、これからの時代を生き抜き力として一番必要なものと考えます。自主学習の習慣化も含め、ぜひ学習意欲の高まる授業改善を進めてください。</p> <p>「自主学習の習慣化」が前年度より下回った結果となっていますが、資格取得のような目的や結果が明確なものと、漠然とした自習・復習などの学習の積み重ねと分けて分析したら対策できるのではないのでしょうか。</p> <p>家庭学習については、家庭のみならず周りの環境づくりがとても大切になってくると思います。</p> <p>新校の開校に向けて、新たな資格取得を推進していくための情報を早めに提供できるよう努めていただきたい。</p>
2	<p>【現状】入学後の満足度が高く、高校生活が充実していると感じている生徒が増加傾向にある。</p> <p>【課題】基本的生活習慣の確立及び自己管理能力を育成するとともに、自他を大切にすることを育むための支援・指導を行う必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的生活習慣の確立</li> <li>自己理解及び自己肯定感の醸成</li> <li>社会人としての基礎的な力の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10分前登校の推進</li> <li>気持ちのよいあいさつの励行</li> <li>MHS コンピテンシー表の研究開発及び活用</li> </ul>	<p>①生徒アンケートの「宮工に入学して良かった」が前年度より上昇したか。</p> <p>②コンピテンシー表等の活用により、自己理解が進んだか。</p>	<p>①生徒アンケートの「宮工に入学して良かった」が83%となった。</p> <p>②12月末までの延べ遅刻者数が1465人から2078人と増加した。</p>	B	<p>○様々な行事を通じて、生徒が主役となる活動を推進し、在校生に自信と誇りを与え自己肯定感の醸成に努める。</p> <p>○遅刻防止のための登校指導や、生徒指導部通信の発行などを継続し、生徒が規則正しい生活習慣を確立するとともに、社会人基礎力の向上を目指す。</p>	<p>遅刻者の増加=生活習慣の乱れ だけではないような気がします。なぜ遅刻してはいけないのか?遅刻をさせないために家庭はどのような対応をしているのか?登校時間が迫り慌てて通学した場合の危険など、理解をしないと行動には現れないと思います。</p> <p>基本的生活習慣は、学校生活はもとより社会生活の基本となるものです。5S活動等習慣化については、引き続き指導していただきたいと思います。</p> <p>「宮工に入って良かった」は先生と生徒の関係が良好なものとして理解できます。</p>
3	<p>【現状】生徒の第一希望の進路実現率が高く、学校行事や委員会活動等に積極的に取り組む生徒が増加傾向にあるとともに、部活動加入率が高いレベルで推移している。</p> <p>【課題】生徒の第一希望の進路実現を目指し、個別最適な支援を行うとともに、望ましい勤労観や職業観の育成のための支援・指導を行う必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習環境の改善</li> <li>自己管理能力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>MHS 5S、SDGs、Kaizenにつながる授業及び講演会等の実践</li> <li>生徒手帳の活用</li> </ul>	<p>①生徒アンケートの「宮工5S活動を実践できている」が前年度より上昇したか。</p> <p>②生徒手帳の活用状況の割合が前年度より上昇したか。</p>	<p>①生徒アンケートの「宮工5S活動を実践できている」が56%であり、昨年より13%減少している。</p> <p>②生徒アンケートの「生徒手帳の活用状況」が昨年より7%減少し、26%となった。しかし、「時間の管理ができています」生徒は79%となった。</p>	B	<p>○5S活動やSDGsの意義を再確認させるとともに、生徒自身がより意欲的に活動できるよう支援・指導を行う。</p> <p>○生徒自身のスケジュール管理や、学年集会等でのメモ取りなどを推進し、組織的に生徒手帳を活用する場面を設け、習慣化を図る。</p>	<p>転職することのハードルが下がっている現社会で、少子化→就労人口減→求人倍率青天井 で引く手あまたの状態は今後も続くと思われそうですが、離職率は増加しています。生徒の希望と企業のミスマッチを防止する意味でも、何に興味があり、どんな仕事に就きたいかをイメージできることが大事だと思います。</p> <p>進路選択はこの年齢においては大変重要な節目であると思います。自らの目標に向けて踏み出す力の育成を学校行事や部活動をとおして進めていただければと思います。</p> <p>社会人の基礎力を育てるために多くの体験が必要なこの時期に、たくさんの方の社会経験ができる場の設定があるのがすばらしいことだと思います。</p>
4	<p>【現状】地域や企業、大学等との連携による「協働教育」が進められている。取組や魅力を伝えるための情報発信に努めている。</p> <p>【課題】地域社会等との連携を強化するとともに、持続可能な学校外連携の構築に努める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事、委員会活動、部活動等への積極的な参加</li> <li>勤労観や職業観の醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>MHS 学科教科連携横断による教育活動の実践</li> <li>生徒の主体性を高める支援・指導の実践</li> <li>MHS 校内組織が連携したインターンシップやキャリア教育アゴラをはじめとしたキャリア教育の実践</li> <li>MHS 他科(他分野)と協働した教育活動の実践</li> <li>「進路レポート」等の作成と活用</li> </ul>	<p>①生徒アンケートの「委員会活動や部活動、学校行事へ積極的に参加した」が前年度より上昇したか。</p> <p>②部活動加入率が上昇したか。</p>	<p>①生徒アンケートの結果より、生徒の各学校活動への積極性が、委員会80%、学校行事90%となった。一方、部活動が63%と昨年比減となった。</p> <p>②部活動加入率が84.7%となった。 【参考】(R5.9調べ) 【参考】R4 76%5月時点</p>	B	<p>○学校行事や部活動に取り組む、目標に向けて前に踏み出す力、ゴールに辿り着く力を育成する。</p>	<p>地域、企業や学校との連携で協働されていて素晴らしいと思いつつ、先生も大変なものではないかと察します。MHS指定校ゆへの期待度もあり、様々なアウトプットが要求されているのではないのでしょうか。学年次を分けて、たとえば1年次は地域、2年生は企業、3年生は学校とすれば負担は減ることはないですか。</p> <p>地域小学校、中学校との交流事業、地域への働きかけ等を通じ、長年にわたり「地域に開かれた学校」に努められていると思います。</p>
4	<p>【現状】地域や企業、大学等との連携による「協働教育」が進められている。取組や魅力を伝えるための情報発信に努めている。</p> <p>【課題】地域社会等との連携を強化するとともに、持続可能な学校外連携の構築に努める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会等との連携強化</li> <li>積極的な情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>MHS 小中学生を対象とした「高校生が先生のものづくり教室」等の開催</li> <li>MHS 中学校及び高校の教員を対象とした研修の実施</li> <li>中学生及び保護者、中学校教員を招いた学校説明会等の実施</li> <li>学校HPの積極的な更新</li> <li>刊行物の定期的な発行</li> </ul>	<p>①地域社会等との連携を強化することができたか。</p> <p>②本校の取組や魅力を学校内外に十分伝えることができたか。</p>	<p>①マイスター・ハイスクール事業を活用し、学科・教科の横断型授業や中高大連携STREAMS教育、企業連携した課題研究、学科合同課題研究発表会が実践され、指導改善や学習改善を積極的に進めた。</p> <p>②中学校PTA主催の合同高校説明会や南部地区中高進路指導キャリア教育研究協議会、埼玉県地方産業教育審議会が本校会場で行われ、中高職員等の参加があった。本校公式インスタグラムが開設され魅力発信が多様化された。</p>	A	<p>○生徒の日々の学校生活の様子や本校の魅力を積極的に学校内外に発信するとともに、生徒が主体となった連携事業を推進し、中学生が憧れる宮工生の育成に努める。</p> <p>○マイスター・ハイスクール事業を活用し、地域社会との連携を強化するとともに、持続可能な学校外連携の構築に努める。</p>	